

生育順調！高温予想のため穂肥は適期に確実に施用！

【7月8日生育状況】（管内10か所平均、平均田植日5/19）

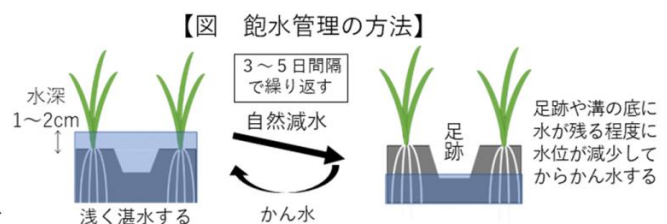
草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
59	97%(並み)	503	108%(やや多い)	10.8	+0.1(並み)	35.7	-1.7(やや淡い)

- 草丈は指標値並み、田植えの早いほ場を中心に一部で葉色の低下が見られる。
- 1か月予報（7/2新潟地方気象台発表）では、向こう1か月間の気温が高い確率は60%。

【今後の管理のポイント】

1 水管理は、飽水管理で品質・収量確保

- 飽水管理により、用水を有効活用し、根の活力を維持しながら地温上昇を抑える。
- 番水やローテーション等、地域での水管理体制を確認し、用水を有効利用する。かけ流しは、絶対にしない。



2 コシヒカリの出穂期予想と穂肥適期・量のめやす（7/8現在）

- 出穂期は近年（過去10年）より1日程度早まる見込み。

田植日	幼穂形成期	出穂期予想	穂肥適期のめやす（カッコ内は出穂前日数）			1~2回目窒素成分合計量
			1回目	2回目	3回目	
5/15	7/8	8/1	7/14~17 (18~15)	7/22 (10)	7/29 (3)	1~3 kg/10a
5/20	7/10	8/3	7/16~19 (18~15)	7/24 (10)	7/31 (3)	
5/25	7/12	8/5	7/18~21 (18~15)	7/26 (10)	8/2 (3)	

※必ず幼穂長を確認し、出穂前日数を判断する。

幼穂長と出穂前日数のめやす：0.1cm→24日前、0.2~0.4cm→20日前、0.5~1.0cm→18日前

3 穂肥施用

(1) 分施肥体系の場合

① 1回目穂肥は生育診断を行い、葉色が低下しないよう適正施用

- 生育量が標準的な場合
葉色維持と収数確保のため適期に基準量を施用する。
(出穂期18日前に窒素成分 1~1.5kg/10a)
- 草丈が長く、葉色が淡い場合
葉色を維持するための必要量を施用する。(出穂期18~15日前に窒素成分0.5~1 kg/10a)

1回目穂肥施用時期(出穂18日前) の標準的な生育のめやす	
草丈 72cm	葉色(SPAD 値) 35

② 2回目穂肥は、後期栄養を確保するため確実に施用

- 出穂期10日前に窒素成分1~1.5kg/10a

③ 3回目穂肥 …高温が続き、2回目穂肥施用後も葉色の回復が不十分な場合

- 出穂期3日前の葉色(SPAD 値)が31以下の場合、窒素成分1 kg/10a

(2) 全量基肥一発施肥体系の場合

- 高温が予想されるため、出穂期の葉色(SPAD 値)が32~33を下回ると予想される場合は追加穂肥を施用する。(出穂期10日前頃に窒素成分1~1.5kg/10a)。

(※特栽米で計画にない追加穂肥や施用量を増やす場合は所定の手続きを行う)